

令和8年度第3回府中市市民協働推進会議録（要旨）

- 開催日時 令和8年7月23日（木）午後2時から4時
- 開催場所 府中駅北第二庁舎3階 打合せ室
- 出席委員 青山会長、関根副会長、五十嵐委員、芝委員、柴原委員、高橋委員、竹内委員、田中委員、野原委員、花岡委員
- 欠席委員 名島委員
- 事務局 大井市民協働推進部長、福嶋協働共創推進課長、加瀬主査、大藤主査、小池主任、徳吉事務職員
- 傍聴者 1名
- 議事内容

1 報告事項

- (1) 第7次総合計画「協働により推進したい取組み」の進捗状況について
- (2) 令和7年度協働事業実績調査について
- (3) 令和8年度ファンファーレの審査結果について
※部会（6月8日実施）
- (4) 共創トライアル・学生チャレンジ事業について

2 審議事項

- (1) 第1次府中市市民協働推進計画について

3 その他

■会議録（要旨）

○会長 第3回府中市市民協働推進会議を開会する。事務局に委員の出席状況などについて報告をお願いします。

○事務局 名島委員欠席。定数11名のうち過半数の委員が出席のため、本会議は有効に成立していることを報告する。なお、傍聴希望者がいらっしゃるため、入場いただいてよろしいでしょうか。

○会長 1名の傍聴希望者がいらっしゃるとのことだが、入場いただいてよろしいか。

（異議なしの声、傍聴者入室）

○事務局 続いて資料を確認する。（資料の確認）

○会長 前回の会議録は事前に確認いただき、修正したものを会議資料とあわせて送付した。追加で修正等はあるか。

(意見なし)

○会長 送付した内容の通り、会議録および資料ともに資料のとおり確定する。

■報告事項1 第7次総合計画「協働により推進したい取組み」の進捗状況について

報告事項2 令和7年度協働事業実績調査について

○会長 報告事項1及び2について、事務局に説明をお願いします。

事務局より資料1-1、資料1-2、資料2-1、資料2-2、資料2-3、資料2-4、資料2-5の内容を説明。

○会長 説明が終わった。何か質問はあるか。

○委員 修正のため机上配付された資料はデータで送付してもらえるか。

○事務局 後日送付させていただく。

○委員 配付されている資料を踏まえて、市としての考察や分析はあるか。

○事務局 配付資料には文字として起こしていない。

○会長 現時点では分析を行っていないとのことだが、どこかで分析を出すことはあるか。

○事務局 対外向けの分析をどこまで出すかというところはあるが、庁内向けには分析をして、各課へ情報共有をしたりすることは考えられる。

○委員 市の方で分析して、それに対して委員が評価・考察をしたり、どう生かすかを考える形でないと、データを見て終わりにになってしまうと思う。この結果をより良くしていくためには、そのようなプロセスにすると良いと思う。

○委員 その通りだと思う。昨年度は答申書の中でこのデータに加えて解説が入っていたので、そこでもう一度確認するのはどうか。

○事務局 昨年度の本会議におけるご意見を踏まえ、審議事項から報告事項に改めたので、答申書に記載する予定はなかったが、報告事項であるものの、新たにいただいたご意見として答申書へ市の考察内容を記載する方向で調整する。

○会長 昨年度、報告で良いということになったため、報告事項としたが、審議事項との間

を取るということで、その形で進められたらと思う。

○委員 資料２－１について、内容としては、新規も増えていることが確認できるので問題ないと思うが、誤解を生まないためにも集計方法が変わったのであれば、その旨を記載した方が良いと思う。

■報告事項３ 令和８年度ファンファーレ審査結果について

○会長 報告事項３について、事務局に説明をお願いします。

事務局より資料３の内容を説明。

○会長 説明が終わった。ファンファーレ事業の報告について、野原部会長、柴原委員、高橋委員から補足説明やご意見などあれば願する。

○委員 事業内容を聞いて市民へのメリットや協働のよさがどう伝わるかがポイントだと思った。付帯意見を付けたが、その意見も取り入れてもらえてよかった。

○委員 農工大の府中キャンパスがあることを市民は皆知っているが、自分との接点がない感覚があると思う。今回は農工大の方から市民向けのアプローチがあり、関わりを深める姿勢がよかったと思う。よりよいものにするために費用の使い方は精査してほしいとコメントしたが、継続してこういった活動をやってもらいたい。

○委員 農工大があることは知っていてもキャンパスに入れることは知らなかったもので、市民に幅広く根付くよう発信してもらえるといい。

■報告事項４ 共創トライアル・学生チャレンジ事業について

○会長 報告事項４について、事務局に説明をお願いします。

事務局より資料４の内容を説明。

○会長 説明が終わった。質問はあるか。

○委員 学生の定義について、市内の学生に限定しているのか。

○事務局 府中在住、在学の学生に限らない。取組の成果が府中市に還元されることを条件としている。事業を始めるにあたって、市外を含む、これまでに連携実績のある大学・高校を中心に説明に出向いた。

○委員 提案のテーマは限定しているのか。なぜ学生なのか。

○事務局 府中市民に対し還元する取組で、市が公開している行政課題を解決するアイデアであっても、学生自身が課題と感じているものに対する解決策であっても、公益性があればよい。学生に限定しているのは、本市が若者の社会貢献意識の醸成を目的として事業を検討し、寄附者である明治安田生命保険相互会社から賛同を得たものである。加えて、本事業は市民協働・共創促進事業の一環として委託により実施するため、市との委託契約を締結する必要がある。このため、若者個人又はグループではなく、事業の適切な履行を担保できる学校を契約主体とすることが必要であると判断した。

○委員 予算規模はどのくらいか。

○事務局 予算は50万円。1件当たりの上限5万円となるため、10件を想定している。

○委員 1回で10件終わると2回目はないのか。

○事務局 ない。なお、1回で10件以上応募があった場合は、評価・採点の結果、上位の提案から採択する。

○委員 どのように周知しているのか。

○事務局 包括連携協定先である東京農工大学、東京外国語大学、明治大学、明星中学校・高等学校などを中心に事前に説明している。8月1日から市のホームページ等で周知する。報告会を公開形式で実施し、市民や企業にも見てもらう機会にするとともに、若者の社会貢献に賛同いただける他の企業からの更なる寄附を期待し、各所へ本事業のPRをしていく。

○委員 教員の確認を受けるとは、どのようなことか。教員が内容に関与してもよいのか。

○事務局 学生が主体である形であれば、先生の関与の度合いは市から指定するものではない。ゼミの教授や顧問による確認を経て提案をしてもらう想定をしている。

○委員 成功体験をさせるのであれば周囲のアドバイスが重要だが、学生にやらせて失敗も含めて体験させるという育成方法もある。どちらを重視する事業なのか、あらかじめ考え方を整理しておいた方がよい。

○事務局 どちらかというと後者を想定している。チャレンジ事業という事業名のとおりに、市から費用が出てることによって、やってみたかったことができたという体験をまずしてほしい。その先に、内容をよりよいものにするために改めて企業から支援を受けるなど、チャレ

ンジ事業を契機に発展していくとよい。

○委員 公開報告会で評価をフィードバックできるといい。順位や賞をつけるのであれば、先ほどの定義を整理しておかないと、上手く成功した取組だけが高く評価されてしまう。今後検討してほしい。

○会長 学生のチャレンジ精神を大事にするのは理解できるが、契約が学校長名になるため、学長名でやる以上変わったことはできない、という意識が働くのではないか。提出資料も学生にとっては負担があるように思う。

○事務局 そういった懸念があったので事前に学校を周って説明した。契約先に関しては、市長名での委託契約事業になるのでどうしても履行を担保できる相手方にしないといけない。そのため、履行を担保できる契約主体であることが確認できれば、学長のほか学部長など、学校の要望に応じて柔軟に対応したい。

書類のボリュームについては、通常の市民協働・共創促進事業よりは大きく作業負担を減らし、簡素化しているため、市として求める記載事項は必要最小限となるよう配慮している。また、事前説明を行った学校からも学生が社会人になった際に仕事で必要となるプロセスを体験できると、前向きな意見もあった。

○委員 予算が上限5万円だが、それ以上かかる場合はどうするのか。

○事務局 気軽にチャレンジしてもらうことを重視して低額にしたが、次年度以降は今年度の意見も取り入れて柔軟に変更していく。きょうちゃんどうちゃんのグッズ制作などを提案してくれそうな声もあり、そのくらいの気軽さをイメージしている。

■審議事項1 第1次府中市市民協働推進計画について

○会長 審議事項1について、事務局に説明をお願いします。

事務局より資料5-1、資料5-2、資料5-3、資料5-4の内容を説明。

○会長 まず、図1について意見があるか。

(異議なし)

○会長 図1については修正後の案で確定する。図2について意見があるか。

○委員 どの案も難しく、案1に関しては、協働はPDCAのサイクルに当てはまらない場合もある。よって、図は削除していいと思う。

○委員 図で表現するのは難しいので、削除していいと思う。

○委員 案2は比較的わかりやすいが、図1があれば十分なので、削除してよいと思う。

○委員 案3がいいと思う。伝えようとするのを形ではなく、内容にしたことが良いと思う。花が開いているイメージやみんなが輪になっているイメージが良い。

○委員 案3がいいと思う。他の案は簡素化しすぎており、学生などが見たときに見やすいのは案3だと思う。

○委員 案3がいいと思う。固定した考え方ではなくて、みんながそれぞれ考えるということとよく、イメージとしてイラストを載せるのがいいと思う。

○委員 最初は削除でいいと思っていたが、様々な年齢層の方が見るのであれば、案3がいいと思う。もう少しデザインがよくなるといいと思う。

○委員 案1だとPDCAの全フェーズで協働や共創をしないといけないように見えてしまう。案3は、もともと定義を図解することを意図していた点を踏まえると、その意図からは外れる。定義の図としては削除し、挿絵として入れるのはいいと思う。

○事務局 他のページにも挿絵やコラムを入れることも考えていた。案3を挿絵的に入れることは可能だと考えている。

○委員 案3の使い方をうまく考える方向でいいと思う。計画の11ページにも子どものイラストが出てきたりするので、合うと思う。例えば、案3のうち左側の円卓のイラスト部分だけをここに差し込むのもいいと思う。

○会長 定義の図解については削除とし、案3をベースにした挿絵を計画の適切な場所に入れることで、事務局に調整をお願いする。

次に、資料5-4について審議する。施策指標について意見があるか。

○委員 資料5-4「2 効果検証のための数値目標」のうち「B新規協働事業数」はどうか数えているのか。また「E市民の社会貢献団体への所属割合」に含まれる社会貢献団体の範囲は。

○事務局 いずれも令和7年度に実施した市民アンケートの結果によるものである。社会貢献団体の範囲は明示していない。アンケートの母数は1000件で、回答率は30.9%、

有効回答は309件となっている。

○委員 今後も市民アンケートを継続的に実施するのか。

○事務局 毎年実施する。

○会長 「2 効果検証のための数値目標」のA～Fは、「3 基本目標別の施策・指標」とどう対応しているのか。

○事務局 各事業の効果は「3 基本目標別の施策・指標」で事業ごとに測定するが、その結果、計画の成果としてどうだったか、というのが「2 効果検証のための数値目標」である。

○委員 市民アンケートは毎回無作為抽出するのか。無作為の場合、うまく数値を取れないのではないのか。

○事務局 毎回無作為抽出である。調査精度を高めるため、調査対象者数を増やすことを検討したい。

○委員 計画の実施主体は誰か確認したい。例えば、プラッツでの青少年向けの事業について、企画のおおもとは府中市であり、計画がプラッツの運営にも反映されていくのか。

○事務局 実施主体は協働共創推進課であるので、プラッツの事業にも反映していく。

○委員 プラッツにある課題など、具体的な課題を解決することを市として動いていかないと計画が達成できないと思う。プラッツには度々意見しているが改良が見られないものがある。計画で定めた一つ一つの目標を達成するために具体的に何をしていくか、プラッツにどのように働きかけ、話し合っていくか、イメージしたうえで計画を作っているのか。

例えば、ソーシャルビジネスラボもよい環境なのに利用が少ない。市民活動交流スペースでも交流が生まれていない。施策の「市民活動団体への支援」のなかに「NPO・ソーシャルビジネス専門相談」があるが、そもそも対象は市民活動団体に限定していない。

○事務局 「NPO・ソーシャルビジネス専門相談」については適切な記載に修正する。具体的に何をしていくか、委員の皆様からいただいた意見も踏まえて検討する。

また市の計画の一般的な考え方として、ここまで達成したいというのが計画で、どうやって達成するかは関係各課と一緒にやり方を考えていく形になる。当課の所管のことで、プラッツのことであれば、プラッツと一緒にどうやって達成するかを考える。

○委員 計画期間終了後に、ただ結果を公表して終わるのではなく、目標に向かってやっていくようにしてほしい。委員についても、一緒に目標を達成するための方法を考えたり、達成するのに必要な委員を集めたりすることも重要だと思う。また、現場の声も拾いながら作っていくことも必要だと思う。

○事務局 進捗管理は、「2 効果検証のための数値目標」で行うが、それにぶら下がっている「3 基本目標別の施策・指標」は毎年変化していく。今あるものについては11年度までに変わることはないと思うので、それを評価していただき、主管課へフィードバックできたらと思う。

協働や共創の考え方が令和11年までに大きく変わることはないと思うが、将来的に目指していく方向性が変わることもあると思うので、その場合でも柔軟に対応できるようにしたい。例年の進捗管理については現場の方にも入っていただいて具体的な提言をもらう方法もあると思う。一つの方法として検討したい。今年度答申に盛り込んでももらいたい。

○会長 施策ごとに事業が紐づいていることはわかるが、その紐づけが正しいかは委員では判別が難しい。計画には施策の説明はあるが、事業内容の説明はない。

○事務局 市としては既存の事業一つ一つを委員に見ていただくのは難しいと思っている。しかし、こういう事業があるといい、これを見直してほしい、という意見があれば検討したい。

○会長 とはいえ、事業内容がわからないと意見を出すことが難しい。

○事務局 今後、評価の際にも事業概要は理解しておく必要があるので、各事業の概要についての説明を早めに整理して共有する。それを計画に掲載するかは別途検討する。

○会長 事務局に各事業の概要の整理をお願いします。

○会長 40ページ「3 施策体系」の「市民協働に取り組む市民等への支援」にある「企業の社会貢献活動の支援」には主な事業が学生チャレンジ事業となっているが、48ページには別の事業の記載がある。どちらが正しいか。

○事務局 誤記であり、施策2-6については学生チャレンジも含まれる。

○会長 39ページのステージ表記が後続の章に生かされていない。

○事務局 各施策がどのステージに活かされるのか追加を検討する。

○会長 ソーシャルビジネスの言葉の定義を追加してほしい。

○事務局 承知した。

○委員 庁内で協働が推進されている、されていない部署はあるのか。資料1や2を見ると偏りがあるので伺いたい。

○事務局 この計画にも記載のあるとおり、職員向けの研修や各課への事例紹介などを行っており、これらの取組が十分に効果を上げていれば、職員がしっかりと同じ方向を向いていけると思う。

○委員 よく「協働って何？」と聞かれるので、なぜ協働が大切か、必要かを計画のどこかに記載してほしい。

○事務局 「1 用語の定義」の前に、なぜ協働が必要か追記する方向で検討する。

○委員 今の内容は「はじめに」にあるといいと思う。

○会長 改めて、資料5－4については、施策と事業の紐づけについて整理した資料を事務局から提供してもらい、再度見直すことでいいか。目標値の立て方も、将来的にきちんと測定できるものに見直したい。なお、前提として、全体の計画の方向性や指標の方向性について、他に意見はあるか。

(意見なし)

■ 3 その他

○会長 本日予定された審議事項についてはすべて終了となる。全体を通して質問等はあるか。

(質疑なし)

○会長 最後に事務局から連絡事項をお願いする。

○事務局 次回の会議は8月27日(木)午後2時から第2庁舎3階小会議室で実施する。第2回と同じ会場となるので、よろしくお願いします。また、計画等について今後もメール等で、委員の皆様にご確認やご意見をいただくことが想定されるので、ご承知おきいただきたい。以上である。

○会長 以上で本日の会議は終了する。